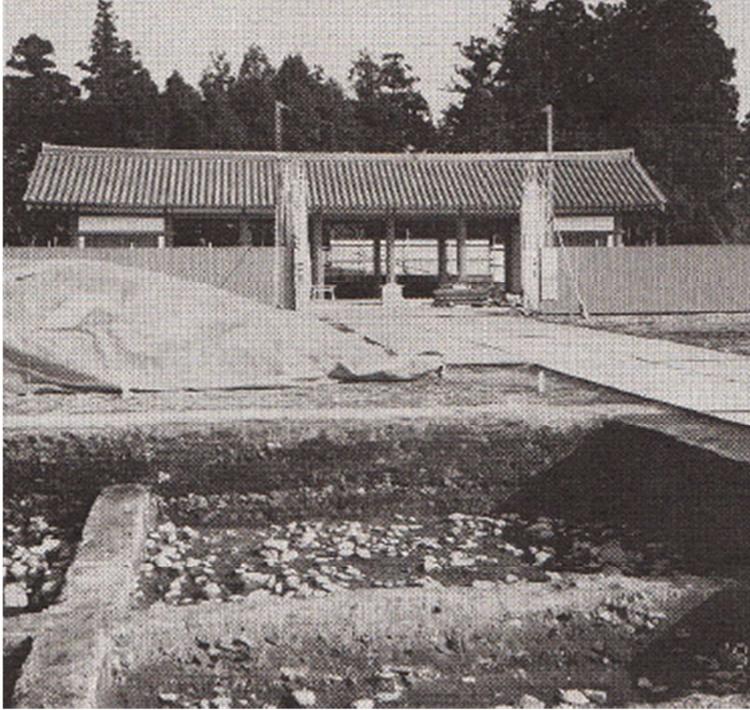


しもつけこくふあと はくくつ
下野国府跡の発掘



しもつけこくふ
下野国府は、1979

（しょうわ
昭和54）年に、

たむらちよう みやのべ
栃木市田村町宮辺

みやのめじんじゃ みや
にある宮目神社（宮

のべじんじゃ しゅうへん
野辺神社）周辺か

こくちようあと はくけん
ら、国庁跡が発見

されました。

しもつけこくちよういき
下野国庁域は、

やく しほう ないぶ ちゅうしん ぜんでん わき ひがしわきでん にしわき
約90m四方で、内部には中心に前殿、その脇に東脇殿と西脇

でんみなみ みなみもん はつきやくもん
殿南に南門（八脚門）があります。

また、こくちよう ちゅうしん しゅうい ちく こくふ よ
また、国庁を中心とした周囲の地区を国府と呼びますが、

しもつけこくふ はんい とうざい ちよう なんぼく ちよう
下野国府の範囲は、東西五町（540m）南北5,5町（594m）

かんが こくちよう たてもの ならじだいぜんき せいき
と考えられています。なお国庁の建物は、奈良時代前期の8世紀

ぜんはん へいあんじだいちゅうき せいきはじ おな ばしよ
前半から平安時代中期の10世紀初めころにかけて、同じ場所に

かいた なお
4回建て直されていることがわかっています。

（「栃木市のあゆみ」栃木市教育委員会から）